

フューチャースクール推進事業評価会 議事概要

1. 日時：平成25年3月15日（金）～21日（木）（文書審議）
2. 場所：各構成員の勤務先等
3. 参加者
 - (1) 構成員（敬称略）

清水康敬（主査）、石原一彦、金森克浩、小泉力一、長谷川忍、前迫孝憲、矢野米雄

※ 村上構成員は所用のため、今回は参加辞退
 - (2) 事務局
総務省情報流通行政局情報通信利用促進課
4. 配布資料
 - 平成24年度成果報告書（以下、10団体）

新地町、横浜国立大学、上越教育大学、松阪市、和歌山市、新見市、佐賀県、宮古島市、富山県、京都市
 - 平成25年度実施計画（以下、10団体）

新地町、横浜国立大学、上越教育大学、松阪市、和歌山市、新見市、佐賀県、宮古島市、富山県、京都市
 - 評価のポイント（継続審査）（※評価の方法、評価表の入力についての説明）
 - F S継続評価表（※評価表様式）
5. 議事概要

各団体の平成24年度成果報告書及び平成25年度実施計画について、それぞれ2名の構成員が評価した結果、評価を担当した構成員2名がいずれも総合評価を「A 25年度も引き続き事業を実施することが適当」としたため、平成25年度も事業を継続するという評価結果となった。

なお、各構成員による評価結果の詳細は別紙のとおり。

(別紙) 各構成員による評価結果の詳細 ①

委託先団体	構成員①	構成員②	評価結果	構成員の主なコメント
福島県新地町 (尚英中学校)	A	A	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的にみて事業の妥当性は高いと評価できる。 ・被災地の学校として防災教育を他自治体へ発信するなど意欲的な取り組みが計画されている。平成26年度以降の事業の継続性の確保については「自主財源により実施」とだけしか書かれていないが継続するための具体的な取り組みを期待したい。
横浜国立大学 (附属横浜中学校)	A	A	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も継続発展しての研究が実施できると期待できる。
上越教育大学 (附属中学校)	A	A	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・実証テーマと評価方法の対応関係が明確であり、活発な実践が今後も行われるであろうことが丁寧な報告および計画から十分に理解できる。
三重県松阪市 (三雲中学校)	A	A	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒用の端末としてiPad2を導入した学校として全国的に注目されているが、その期待に応えて多様な実践を行っている。平成25年度ではただ単に生徒に使わせるだけでなく、コミュニケーションや思考のツールとして授業の枠組みの中にきちんと位置づけられている点が評価できる。 ・タブレット端末の普及により、一人一台情報端末の時代が迫りつつあると思われるが、同市の取組みは、協働学習への活用方法や教員の学習共同体構築など、教育分野における先進事例として重要な成果が得られていると考える。
和歌山県和歌山市 (城東中学校)	A	A	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌山市全体の取り組みとして本事業を推進しており、また成果の発信を積極的に行なっていることから、フューチャースクールを実施する上での自治体のあり方に関するモデルケースとして大いに期待できる。 ・独自テーマとして、「クラウド型によるユビキタス環境」を挙げ、タブレットPCの利用と共にモバイル通信(WiMax)を活用し、いつでも、どこでも、学習が行える環境の実現を目指し、実践している。次世代の教育の方向性を示唆するものとして重要であると考えます。

(別紙) 各構成員による評価結果の詳細 ②

委託先団体	構成員①	構成員②	評価結果	構成員の主なコメント
岡山県新見市 (哲西中学校)	A	A	継続	・新見市では市の部局がリーダーシップを取って全市的に情報化を進めている点が強みである。学校の取り組みもiPad2を授業だけでなく日常的に活用し、生徒の情報活用能力を向上させている。事業の継続性の確保についても市の具体的な支援が期待できる。
佐賀県 (武雄青陵中学校)	A	A	継続	・学校連携を始め、総合的な学習「探求」の充実等、協働学習のさらなる充実を目指している。アンケートの実施計画がきめ細かく、今後のICT活用に活かせる。 ・幅広い観点から検討して事業を実施しており、成果が期待できる。
沖縄県宮古島市 (下地中学校)	A	A	継続	・統計的なデータ分析に加えて、評価の低かった生徒の分析を詳細に行うことにより、フューチャースクールにおける課題をより明確なものとしてもらうことを期待する。
富山県 (ふるさと支援学校)	A	A	継続	・次年度も継続発展しての研究が実施できると期待できる。 ・地域の先進的な連携体制を活かして様々な実証テーマを設定しており、先行事例として他地域に与える影響は大きいと考えられる。
京都府京都市 (桃陽総合支援学校)	A	A	継続	・次年度も継続発展しての研究が実施できると期待できる。 ・病弱教育特別支援学校の特性を踏まえた様々な実証テーマを設定しており、先行事例としての意義は大きいと考える。

評価員における総合評価基準

- A 25年度も引き続き事業を実施することが適当
- B 25年度も事業を継続することが適当だが、25年度の事業実施に当たっては、24年度の反省を踏まえ特に〇〇について留意すべき
- C 事業を中止すべきであり、総務省は事業中止の方向で、文部科学省と協議すべき